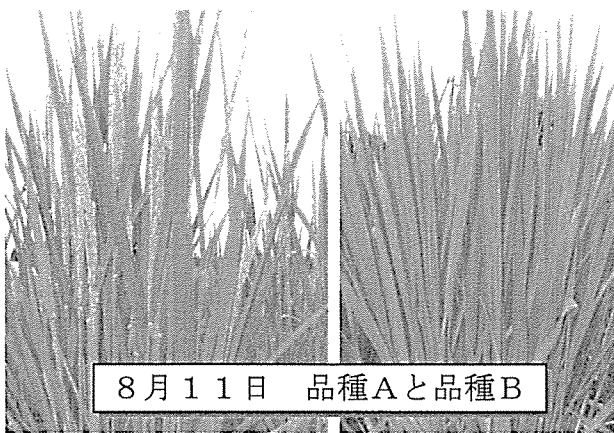


わたしたちは、次の二つのテーマで活動してきました。

テーマ①「できるだけ農薬を使わず米を作る」

田んぼ環境鑑定士の小幡さんが「この田んぼにはたくさんの虫がいる⇒水がきれい⇒おいしい米ができる」と教えてくださいました。おいしい米を作るためにきれいな水を守っていかなくてはいけないと思いました。  
 できるだけ農薬を使わないようにするため、草取り(田の内外)が大変でした。機械の効率のよさと比べながら、昔の人の苦勞を実感しました。



8月11日 品種Aと品種B

テーマ②「数種類の米を育てて、ちがいを観察する」

石曾根さんが、4種類の苗を用意してしてくださいました。

生長の様子を観察してしばらくは、生長にそれほどちがいはありませんでした。しかし、気温が上がってくると、その様子にちがいは、きりとしてきました。開花の時期もずいぶんずれていました。

観察しているうちに、同じ品種でも場所によって生長の様子や開花の時期がずいぶんずれていることに気がきました。わたしたちは、水の冷たさが原因ではないかと考えています。

これらの活動を通して、わたしたちは、水がきれいで冷たい妙高高原地区では、これまでどのような米作りがされてきたのだろうと思うようになりました。そこで、昔、農業指導員をされていた中嶋さんに当時の米作りについて聞くことになりました。  
 ここからは、舌を聞きに来てください！

スマイル米クイズ (正解だと思うところに○をつけてね。)

1 わたしたちの育てた4種類の米は、コシヒカリ、アキタコマチ、農林1号ともう一つは何でしょうか？

- ① ほほほの穂    ② 華麗米    ③ なごりゆき

2 次のうち、益虫はどれでしょうか？

- ① ウンカ    ② ゾウムシ    ③ クモ